

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 8 月 9 日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25245032

研究課題名(和文) ケンブリッジ、オクスフォード、LSEの経済思想と現代福祉国家の変容

研究課題名(英文) Economic Thought of Cambridge, Oxford, LSE and the Transformation of the Welfare State

研究代表者

西沢 保 (Nishizawa, Tamotsu)

帝京大学・経済学部・教授

研究者番号：10164550

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 33,000,000円

研究成果の概要(和文)：19世紀末以降のケンブリッジ、オクスフォード、LSEの経済思想の展開を、現代福祉国家の変容・危機を視野に入れて、共同研究を進め成果を得た。  
具体的には、1. 「創設期の厚生経済学と福祉国家」から厚生経済学史の再検討へ、2. リベラリズムの変容と福祉国家 - ニュー・リベラリズムからネオ・リベラリズムへ、3. マーシャル、ケインズと同時代の経済思想、4. ケインズと現在の世界経済危機 - 戦間期との比較考証、の4点を中心に国際共同研究を進め成果を得た。

研究成果の概要(英文)：We pursued the joint research work on the economic thought of Cambridge, Oxford, and LSE after the late 19th century, in relation to the development, transition and crisis of the welfare state, and got some positive results. Specifically, we focused on, 1. 'Welfare economics and the welfare state in the formative age' to the reconsideration of a history of welfare economics; 2. Liberalism and the welfare state: from new liberalism to neoliberalism; 3. Marshall, Keynes and their contemporaries; 4. Keynes and the world economic crisis today: in comparison with the between the wars.

研究分野：経済学説

キーワード：ケンブリッジ、オクスフォード、LSEの経済思想、厚生経済学と福祉国家の歴史的検証、ニューリベラリズムからネオリベラリズムへ、マーシャル、ピグー、ケインズ、ケインズと現在の世界経済危機

## 1. 研究開始当初の背景

我々は、本研究に先行する基盤研究(B)「ケンブリッジ学派の多様性とその展開 - 思想・理論・政策の複合的研究」(2002 - 2004年)(課題番号:14330002)、基盤研究(A)「ケンブリッジ学派に関する経済学史的視座からの批判的評価」(2005 - 2008年度)(課題番号:17203015)、および、基盤研究(A)「ケンブリッジ、LSEの経済思想と福祉国家の基礎理論」(2009 - 2012年度)(課題番号:21243017)において、マーシャルからケインズの時代のケンブリッジ学派の多様性と共通性、ケンブリッジと競合的な関係にあったLSE(ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス)の経済思想との比較を念頭に、福祉国家の基礎理論(経済学・経済思想)の解明に努める国際的な共同研究を進めてきた。

19世紀末に資本主義と社会経済問題に対する認識が大きく変わるなかで形成されてくる厚生経済学と福祉国家を大きなコアにして、ケンブリッジ、LSE、オクスフォードの経済学・経済思想の研究を深め、さらにそれをニュー・リベラリズムからネオ・リベラリズムへという現代福祉国家の大きな変容に展開させることを考えていた。これは、ケインズ、ベヴァリッジ的なニュー・リベラリズムによる福祉国家から、ハイエク的なネオ・リベラリズムによる市場主義への大きな転換である。またマーシャル研究を深め、ケインズを現代の経済危機のなかで考察することを考え、いずれについても本研究に先行する基盤研究(B)、二つの基盤研究(A)で一定の準備はできていた。

これらは、本研究に先行する基盤研究(B)二つの基盤研究(A)で構築された国際的な共同研究のネットワークをもとに進められ、R. Backhouse and T. Nishizawa eds., *No Wealth But Life. Welfare Economics and the Welfare State in Britain* (Cambridge University Press, 2010); T. Raffaelli, T. Nishizawa and S. Cook eds., *Marshall, Marshallians and Industrial Economics* (Routledge, 2011); B. Bateman, T. Hirai and C. Marcuzzo eds., *The Return to Keynes* (Harvard University Press, 2010) などとして出版されていた。

## 2. 研究の目的

本研究は、これまでの共同研究の成果を踏まえ、それをさらに発展させて、現代経済思想史研究の関連領域に資するために、以下の4つの研究課題を中心に研究を進展させる。(1)「創設期の厚生経済学と福祉国家」から厚生経済学史の再検討へ：国民所得と厚生・福祉の増大を同格化するピグーの厚生経済学は、多様な厚生・福祉研究の一つの到達点であった。しかし、イギリス福祉国家の形成期であるこの時期には、多様な福祉の経済思想が存在した。T.H.グリーンやラスキンの

理想主義に端を発する「ラスキンの厚生経済学」、ホブソンの福祉の経済思想の研究を中心に多元的な厚生経済研究があった。日本の福田徳三やアメリカの初期制度学派など国際的な広がりを含め、この多様な福祉・厚生経済研究の実態と意義を解明する。ラスキン、ホブソンの経済思想を掘り下げ、併せて「富と厚生」の歴史を検証し、マーシャルの福祉観との共通点を明らかにし、センのような現代厚生経済学との接点を歴史的・理論的に解明する。ピグー研究を深め、ナショナル・ミニマムのような非市場的福祉要因とピグー厚生経済学の整合的な評価に努める。センの潜在能力アプローチに至る厚生経済研究の思想的・理論的系譜を明らかにし、新たな厚生経済学史の構築を目指す。

(2)マーシャルおよびケインズと同時代の経済思想：西沢がCaldariと進めてきたマーシャルの“Progress”に関する未完の最終巻の完成を目指す。共同研究の成果である*Marshall, Marshallians and Industrial Economics*を発展させ、産業組織・企業組織に関するMarshallianとNeo-Marshallianとの位相を解明する。ケインズと同時代については、社会哲学、マクロ経済学の形成などについて研究を進める。

(3)リベラリズムの変容と福祉国家：ニュー・リベラリズムからネオ・リベラリズムへ：1870年代以降の自由主義の変容をケインズ以前と以降、そして第2次大戦後から1970 - 80年代までの3つの時期に分け、福祉国家の形成・展開・危機との関係で考察する。ケインズ以降は基本的にケインズ・ベヴァリッジ体制の形成・展開になるが、その実態の解明とともに、その過程におけるケンブリッジとLSEの位相を検証する。ハイエクやミーゼス、モン・ペルラン協会、IEA (Institute of Economic Affairs)のようなシンクタンクによるネオ・リベラリズムの国際的な普及と意義を解明する。

(4)ケインズと現在の世界経済危機、戦間期との比較検証を踏まえて：世界を襲う現在の経済危機は、戦間期のそれと類似する側面が多い。経済危機を克服できずに悪化に向かわせた戦間期、そして悪化に向かわせている現在の経済政策・経済学のあり方は、本研究の大きな関心事である。戦間期に変革の先頭に立ったケインズの活動は、現在の経済危機に対して、歴史的妥当性と共に今日的意義をも有すると思われる。本研究は、経済思想史および隣接経済学の協働により、資料研究と現在の洞察をミックスさせることにより、世界資本主義が抱える問題点を指摘し、今後の指針を示すことを目指す。

## 3. 研究の方法

本研究組織の多くの者は、科研費を基盤に国際的な共同研究を進め、この領域で世界の研究をリードする内外の研究者を招聘して国際コンファレンスを開催し成果を公表し

てきた。(この間、6冊の研究書を英文で公開した。)こうして構築された内外の研究者ネットワークをと研究資源を最大限に活用して、連携研究者、内外の研究協力者との有機的な連携・協働のもとに、研究目的に掲げた4つの研究課題の解明を軸に研究を進展させる。アーカイブズ・ワークを進め、国際コンファレンスを重ねて成果を公表し、この領域の学術的公共財の構築に資する。

具体的に、(1)研究代表者・西沢は、研究協力者 Backhouse と協働して、国際コンファレンス「厚生経済学史の再検討：厚生観・福祉観の変遷 - ラスキン、マーシャルからセンへ」を重ねて、成果を公表すべく努める。厚生経済学・福祉の経済学の歴史における非市場的福祉要因の復位、非厚生主義的基礎を再興し、新たな厚生経済学・福祉の経済学の歴史的・理論的再構成を目指す。(2)西沢は、Backhouse, Bateman と共編で、これまでの成果も踏まえて、“Liberalism and the Welfare State: from New Liberalism to Neoliberalism”という書物の企画・出版準備を進める。市場の認識の変化とリベラリズムの変容を、19世紀末からのニュー・リベラリズム、福祉国家の形成・発展、第2次大戦後におけるネオ・リベラリズムの普及と福祉国家の危機を検証する。(3)Caldari・西沢の協働で進めている、マーシャルの“Progress”に関する未完の最終巻の完成を目指して、マーシャルの手稿群の再構成・校訂注などの作業を進める。マーシャルの企業組織・産業組織の研究も深め、またケインズの同時代の研究を、社会哲学、マクロ経済学の形成などの側面で進展させる。(4)ケインズと現在の世界経済危機について、ケインズの活動の諸側面(経済学、経済政策、国際制度、社会哲学など)を対象とし、リーマン・ショックによる世界経済の激変を考慮に入れながら、現代的観点からケインズの再評価を目指す。

#### 4. 研究成果

(1)「創設期の厚生経済学と福祉国家」から厚生経済学史の再検討へ：Backhouse and Nishizawa eds., *No Wealth But Life. Welfare Economics and the welfare State in Britain* の後、それを少し広げて日本語版とも言える『創設期の厚生経済学と福祉国家』(西沢・小峯編)を公開した。それを展開させて、Backhouse, Steve Medema、後藤らと協力し、厚生経済学史の再検討に関わるコンファレンスを重ね、まず、Nishizawa, Caldari, Dardi eds., “Aspects of the History of Welfare Economics”, *History of Economic Ideas*, xxii, 2014 を上梓し、Backhouse, Baujard, Nishizawa eds., “Welfare theory, public action, and ethical values: Re-evaluating the history of welfare economics in the 20<sup>th</sup> century” を出版すべく準備中である。『経済研究』の小特集「厚

生経済学と福祉国家の歴史的検証」(2014年)も成果の一つである。

(2)マーシャルおよびケインズと同時代の経済思想：Caldari and Nishizawa で進めてきた、マーシャルの“Progress”に関する手稿は、刊行に向けた作業を進め、まずは *Marshall Studies Bulletin* に載せるべく準備中である。Komine, *Keynes and his Contemporaries* (Routledge, 2014) が刊行され、西沢・平井編『ケンブリッジ学派の経済思想』(ミネルヴァ書房)も入稿済みである。平井俊顕監訳『リターン・トリ・ケインズ』(東京大学出版会、2014年)、西沢保監訳『資本主義の革命家ケインズ』(作品社、2014年)も関連する成果である。

(3)リベラリズムの変容と福祉国家：ニュー・リベラリズムからネオ・リベラリズムへ：当初の構成からかなり変更したが、イギリス、ドイツ、日本の比較を中心に、Backhouse, Bateman, Nishizawa, and Plehwe eds., *Liberalism and the Welfare State: Economists and the Arguments for the Welfare State* (Oxford University Press) が近刊である。

(4)ケインズと現在の世界経済危機、戦間期との比較検証を踏まえて：研究協力者の平井、Marcuzzo を中心に研究が進められ、平井監訳『ケインズは、<今>なぜ必要か?：グローバルな視点からの現在の意義』(作品社、2014年)、Hirai ed., *Capitalism and the World Economy* (Routledge, 2015) が刊行された。Marcuzzo, *Fighting Market Failure* を平井監訳で出版した『市場の失敗との闘い』(日本経済評論社、2015年)も関連する成果である。

最終年度の2017年3月(18-20日)にニース大学の研究協力者 Richard Arena, Muriel Dal Pont Legrand の協力で開催した国際ワークショップ“Between economics and ethics: welfare, liberalism and macro economics”は多数の国から多くの研究者が参加し、非常に有益な実りあるコンファレンスであった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 53 件)

1. Atsushi Komine “Beveridge’s Contributions as an LSE Economist: Economic Analysis, Professionalization, and Evolving Economic Ideas” in R. A. Cord (ed.) *The Palgrave Companion to LSE Economists*, London Palgrave Macmillan (図書所収論文), 2017 (編集集中)
2. Atsushi Komine “How to Avoid War: Federalism in L. Robbins and W. H. Beveridge” in A. Rosselli and Y. Ikeda

- (eds.) *Economist and War*, London: Routledge, (図書所収論文)、2017 (編集集中)
3. Atsushi Komine “Beveridge and his Pursuit of an Ideal Economics: Why did he come to accept Keynes’ s Ideas?” *International Journal of Social Economics*, 43-9, 査読有, pp.917-930, 2017  
DOI (<http://dx.doi.org/10.1108/IJSE-06-2015-0149>)
  4. 山崎聡「優生学の「検死」と功利主義」『高知大学教育学部研究報告』77, 査読無, pp.253-262, 2017
  5. 後藤玲子「自由の価値の物語 民主主義と死」一橋大学経済研究所編『経済研究』67 2、査読有, pp.147-163, 2016
  6. 後藤玲子「福祉国家の忘れ物」後藤玲子編著『正義』ミネルヴァ書房 (図書所収論文) 査読無, pp.1-13, 2016
  7. 西沢保「マーシャルにおける経済学者の旧世代と新世代」『経済学論究』69 2, 査読無, pp29-59, 2015, DOI(A0050030320150069020)
  8. 西沢保「イギリスにおける経済学史研究の形成 1870年代 - 1920年代」『経済学史研究』57 - 1, 査読有, pp.25-49, 2015
  9. 西沢保「解題」、西沢保・森宣人編集『福田徳三著作集』第10巻「社会政策と階級闘争」信山社、(図書所収論文), 査読無, pp.337-374, 2015
  10. 西沢保「福田徳三の経済思想 - 厚生経済研究と福祉国家」,池田幸弘・小室正紀編『近代日本と経済学 慶應義塾の経済学者たち』慶應義塾大学出版会、(図書所収論文), 査読無, pp.165-189, 2015
  11. 池田幸弘「小泉信三と理論経済学の確立 福田徳三との対比を中心に」池田幸弘・小室正紀編『近代日本と経済学 慶應義塾の経済学者たち』慶應義塾大学出版会、(図書所収論文), 査読無, pp.191-211, 2015
  12. Reiko Gotoh “What Japan has left behind in the course of establishing a Welfare State”, *ProtoSociology*, 32, 査読有, pp.106-122, 2015
  13. 藤井賢治「マーシャルにおける組織：生産の経済学の観点からの再評価」『経済学史研究』6 2、査読有, pp.28-46, 2015
  14. Tamotsu Nishizawa with Katia Caldari and Marco Dardi “Introduction”, *History of Economic Ideas*, XXII/2014/1, 査読無, pp.11-14, 2014
  15. Tamotsu Nishizawa with Katia Caldari “Marshall’ s ‘welfare economics’ and ‘welfare’: a reappraisal based on his unpublished manuscript on progress”, *History of Economic Ideas*, XXII/2014/1, 査読有, pp.51-68, 2014
  16. Tamotsu Nishizawa “The economics of social reform across borders: Fukuda’ s welfare economic studies in international perspective”, *Journal of Global History*, 9-2, 査読有, pp.232-253, 2014  
DOI(10.1017/S1740022814000059)
  17. 西沢保「厚生経済学の源流 マーシャル、ラスキン、福田徳三」『経済研究』65 2, 査読有, pp.97-112, 2014
  18. Reiko Gotoh "The Equality of Differences- Sen’ s critique of Rawls’ theory of justice and its implication for Welfare Economics”, *History of Economic Ideas*, XXII/2014/1, 査読有, pp.133-156, 2014
  19. 後藤玲子「差異の平等 センによるロールズ正義理論批判の射程」『経済研究』,65-2, 査読有, pp.140-155, 2014
  20. 渡辺良夫訳「現代経済学に対するケインズの影響」,B.W. ベイトマン・平井俊顕・M. C. マルクツツオ編平井俊顕監訳『リターン・トゥ・ケインズ』東京大学出版会(図書所収論文)、査読無、pp.329-349. 2014
  21. 山崎聡「創設期の厚生経済学の一側面 ピグーと優生思想」『経済研究』65 2, 査読有, pp.126-139. 2014
  22. 小峯敦「『ベヴァリッジ報告』(1942)と『雇用政策』白書(1944) - 戦後構想(社会保障と完全雇用)における経済助言活動の役割」『経済学論集』龍谷大学経済学部, 53 1, 2, 査読有, pp.37-98, 2014
- [学会発表](計52件)

1. Atsushi Komine "Beveridge and his Pursuit of an Ideal Economics: Why did he come to accept Keynes's Ideas?" 科研基盤(A) International Workshop 2017 "Economic Thought of Cambridge, Oxford, LSE and the Transformation of the Welfare State" (国際学会) 2017年3月20日、Le Saint Paul (Nice, France)
2. Tamotsu Nishizawa "Alfred Marshall on Progress (Organic Life-growth) and Welfare (Human Wellbeing) 科研基盤 (A) International Workshop 2017 "Economic Thought of Cambridge, Oxford, LSE and the Transformation of the Welfare State" (国際学会) 2017年3月18日、Le Saint Paul (Nice, France)
3. Reiko Gotoh "Economic Philosophy of Amartya Sen- Social choice as public reasoning and capability approach" 科研基盤(A) International Workshop 2017 "Economic Thought of Cambridge, Oxford, LSE and the Transformation of the Welfare State" (国際学会) 2017年3月18日、Le Saint Paul (Nice, France)
4. Satoshi Yamazaki "Pigou's Welfarism Revisited: the Possibility of Non-Welfarist and Non-Utilitarian Interpretation" 科研基盤 (A) International Workshop 2017 "Economic Thought of Cambridge, Oxford, LSE and the Transformation of the Welfare State" (国際学会) 2017年3月18日、Le Saint Paul (Nice, France)
5. Satoshi Yamazaki "Reexamination of Pigou's Welfarism: A Non-Welfarist Approach?" 科研基盤 (A) International Workshop 2016 "Economic Thought of Cambridge, Oxford, LSE and the Transformation of the Welfare State" (国際学会) 2016年9月6日、一橋大学・佐野書院 (東京都・国立市)
6. Tamotsu Nishizawa "Shionoya's works around and after the 'No Wealth but Life'" 科研基盤(A) International Workshop 2016 "Economic Thought of Cambridge, Oxford, LSE and the Transformation of the Welfare State" (国際学会) 2016年9月5日、一橋大学・佐野書院 (東京都・国立市)
7. Tamotsu Nishizawa "Yuichi Shionoya as a Historian: Professor Shionoya's works in his later years" HES 2016 Conference, (国際学会) 2016年6月19日、Duke University (North Carolina, USA)
8. 後藤玲子「塩野谷経済学のヴィジョン: 新たな福祉国家制度構想」第20回進化経済学会, 2016年3月27日、東京大学 (東京都・文京区)
9. Tamotsu Nishizawa "Alternative History of Welfare Economics and Alfred Marshall", Seminar (招待講演) 2016年3月24日、University of Nice Sophia Antipolis (Nice, France)
10. Tamotsu Nishizawa "New Liberalism and Neoliberalism in Japan before 1970s" WZB Conference "More Roads from Mont Pelerin - Neoliberalism Studies" (国際学会) 2016年3月21日 WZB Berlin Social Science Center (Berlin, Germany)
11. Reiko Gotoh "What Political Liberalism & the Welfare State Left Behind" HDCA Annual Conference (国際学会) 2015年9月11日 Georgetown University (Washington D. C., USA)
12. Atsushi Komine "The LSE's Federalism during the Wars: Robbins's and Beveridge's Liberalism" The 4<sup>th</sup> ESHET-JSHET Joint Conference (国際学会) 2015年9月11日 小樽商科大学 (北海道・小樽市)
13. Satoshi Yamazaki "An Aspect of Welfare Economics in the Formative Age: Pigou and Eugenics" International Workshop "Welfare Economics and the Welfare State in Historical Perspective" Grants in Aid for Scientific Research (A): (国際学会) 2015年3月20日 一橋大学 (東京都・国立市)
14. Reiko Gotoh "What Political Liberalism and the Welfare State Left Behind: Equality of Difference and Public Reciprocity" International Workshop "Welfare Economics and the Welfare State in Historical Perspective" Grants in Aid for Scientific Research (A): (国際学会) 2015年3月21日一橋大学 (東京都・国立市)
15. Tamotsu Nishizawa and Yukihiro Ikeda

- “New Liberalism and Neoliberalism in Non-liberal Japan before 1980’s” International Workshop “Welfare Economics and the Welfare State in Historical Perspective” Grants in Aid for Scientific Research (A): (国際学会)2015年3月21日 一橋大学(東京都・国立市)
16. 藤井賢治 「マーシャルにおける組織: 生産の経済学の観点からの再評価」 Keynes学会第4回年次大会 2014年11月30日, 立教大学 (東京都・豊島区)
  17. Tamotsu Nishizawa “The Economics of Social Reform across Borders: Fukuda’s Welfare Economic Studies in International Perspective” 4<sup>th</sup> ESHET Latin American Conference 2014年11月20日 Universidade Federal de Minas Gerais (Belo Horizonte, Brazil)
  18. Satoshi Yamazaki “Utilitarianism and Eugenics: Aspects of Pigou’s Welfare Economics” 第13回国際功利主義学界 ISUS 2014年8月22日 横浜国立大学 (神奈川県・横浜市)
  19. 小峯敦「ケンブリッジ学派とケインズ マーシャル以後の自己規定」経済学史学会第78回大会 2014年5月24日 立教大学 (東京都・豊島区)
  20. Atushi Komine “Beveridge and his pursuit of an ideal economics: how was the post-war vision constructed” International Workshop “Economic Thought of Cambridge, LSE and the Transformation of the Welfare State” 2014年3月15日 一橋大学(東京都・国立市)
  21. 小峯敦 「1910年前後における経済学トライポスの改訂 マーシャルの設計とケインズ等の実施」ケインズ学会 2013年12月7日 専修大学 (東京都・千代田区)
- 〔図書〕(計 12 件)
1. 西沢保・平井俊顕編著『ケンブリッジ学派の経済思想』(仮題) ミネルヴァ書房 (2017年秋刊行予定)
  2. R. E. Backhouse, B. W. Bateman, T. Nishizawa, D. Plehwe eds., *Liberalism and the Welfare State: Economists and Arguments for the Welfare State*, Oxford University Press (2017年8月刊行予定)
3. 後藤玲子『福祉の経済哲学』ミネルヴァ書房 2015年 pp.392
  4. 西沢保監訳 R. バックハウス、B. W. ベイトマン著『資本主義の革命家ケインズ』作品社 2014年 pp.251
  5. Atsushi Komine *Keynes and his Contemporaries: Tradition and Enterprise in the Cambridge School of Economics*, Routledge, UK 2014年 pp.190
  6. 西沢保・小峯敦編『創生期の厚生経済学と福祉国家 ケンブリッジ学派の経済思想』ミネルヴァ書房、2013年 pp.372
6. 研究組織
- (1)研究代表者  
西沢 保 (NISHIZAWA Tamotsu)  
帝京大学・経済学部・教授  
研究者番号: 10164550
  - (2)研究分担者  
後藤 玲子 (GOTOH Reiko)  
一橋大学・経済研究所・教授  
研究者番号: 70272771
  - (3)連携研究者  
渡辺 良夫 (WATANABE Yoshio)  
明治大学・商学部・教授  
研究者番号: 51030844
- 小峯 敦 (KOMINE Atsushi)  
龍谷大学・経済学部・教授  
研究者番号: 00262387
- 伊藤 邦武 (ITO Kunitake)  
龍谷大学・文学部・教授  
研究者番号: 90144302
- 藤井 賢治 (FUJII Kenji)  
青山学院大学・国際マネジメント研究科・教授  
研究者番号: 20189989
- 池田 幸弘 (IKEDA Yukihiro)  
慶應義塾大学・経済学部・教授  
研究者番号: 8021172
- 本郷 亮 (HONGO RYO)  
関西学院大学・経済学部・准教授  
研究者番号: 80382589
- 山崎 聡 (YAMAZAKI SATOSHI)  
高知大学・教育研究部・准教授  
研究者番号: 80323905